

マンモスだって遊びたい

<今月の聖句>

わたしの恵みはあなたに十分である。(コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章9節)

秋色の木々の下、園庭に子どもらの楽しそうな声が響き渡っています。あまりに楽しそうなので、一体どんな遊びをしているの？ ちょっとのぞいてみましたが、たまに見る大人には、その遊びが何なのかやはり今日もわからずじまい。でも、楽しそう。3人、5人と集まってこちらで小枝片手に追いかっこ、あちらでは滑り台下でこそこそ話大人にはわからなくても、子ども同士はすべてを感じ、納得しさらには他の子も巻き込み、遊びはどんどん、どんどん発展していきます。気がつけば、つくしの園庭中が子どもたちの築きあげた「世界」になって大人はそっと傍らで仲間に入れてもらえれば、なんてラッキー！

そんな子どもたちの遊びの一助になればと先日、砂場にトラック山盛りいっぱい新しい砂を搬入しました。ひと口に「砂」といっても、砂粒の粗さ、種類、産地、混入物の有無、衛生面…。調べてみると、実に多彩で奥深いと知りました。3年がかりで、ようやくこれだと思う砂に出会いました。聞けば400万年前の古びわ湖底の地層から掘り出した岩石を砕いて造ったのだそう。その頃、びわ湖は現在よりずっと南、三重の伊賀あたりにあったといわれています。ほのかな赤みと温かい肌ざわり。同じ地層から信楽焼の原料もとれるそうです。

これできっと子どもたちも今まで以上に楽しく遊んでくれるだろう…と昨日も、今日も、そっと木陰からのぞいてみるのですがあれれ？ 私かのぞく時にかぎってなのか、ここ最近子どもたち砂場にじっととどまる時間の少ないこと、少ないこと…。でも、はたと気づいた。そう、ここはやっぱり子どもたちの「世界」子どもたちが振り向いてくれるまで待ちましょう。でも待てよ、大人にも多少の意地がある。そうだ、子どもたちに一つだけ言っておこうと。あのね、実はね…その砂を取ってきた場所（地層）はね、昔、マンモスがいたんだって。もしかして砂から、大きな牙や骨の化石が出てきたら、どうする？ みつけたら、すぐ園長に知らせてね！

(つくし保育園園長 つだかずお)

<礼拝のご案内>

毎週日曜日あさ10時30分 だいが教会
心あたたまる讃美歌、聖書のおはなし。共に主に感謝しましょう
はじめての方を歓迎します